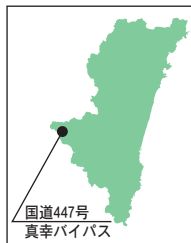


● 国土強靱化

気候変動に伴い激甚化・頻発化する気象災害や、切迫する南海トラフ地震等の大規模地震から、国民の生命・財産・暮らしを守り、国家・社会の重要な機能を維持するため、国土強靱化の取組を切れ目なく推進する必要があります。これまでの「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に引き続き、「第1次国土強靱化実施中期計画」に基づく防災・減災対策、老朽化対策を進めていきます。道路においては、道路ネットワークの機能強化対策、道路施設の老朽化対策などに取り組んでいきます。

● 国道447号 ^{マサキ} 真幸バイパス (えびの市)

国道447号は、えびの市と鹿児島県出水市を結び、九州縦貫自動車道えびのICと南九州西回り自動車道出水ICを東西に最短距離で結ぶ重要な幹線道路です。また、緊急輸送道路にも指定されており、災害時の救援活動を支える重要な路線であるため、国土強靱化の観点を踏まえ、バイパスによる整備を進めています。真幸バイパスを整備することにより、大規模災害時の被災地進出ルートとしての信頼性・安全性の向上が期待されています。



● 国道218号 ^{エト}干支大橋（延岡市）

東日本大震災や熊本地震により道路が寸断され、機能不全に陥ったことを教訓に、道路の震災対策を進めています。

特に橋梁が被災すると復旧に多くの時間を要し、物資輸送等に多大な影響を及ぼすため、緊急輸送道路における橋梁の耐震補強を重点的に実施しています。



整備前



整備後



● 交通渋滞対策

宮崎県における交通渋滞状況を把握し、渋滞解消を図るために、関係機関が一体となって交通渋滞対策を推進することを目的として、宮崎県交通渋滞対策協議会が設立されました。平成24年度に主要渋滞箇所が公表されて以降、継続的に協議会やソフト・ハードを含めた具体的な対策の検討・調整等を行うエリアワーキング部会を開催し、主要箇所のモニタリングを実施しています。主要渋滞箇所は、選定時の226箇所から令和7年度までに47箇所が解除され、現在は179箇所となっています。

【渋滞対策の基本方針】

短期 (概ね5年未満)	道路用地内での簡易な渋滞対策(例: 右左折レーンの設置・延伸)、 早期に対応可能なソフト施策(経路誘導等)等
中・長期 (概ね5年以上)	道路の交通容量拡大や速達性向上に寄与するバイパス整備・現道拡幅、 市中心部から通過交通を排除する環状道路の整備、交通誘導、 対策効果の高い交差点改良、公共交通への転換を促す総合的なソフト対策等

● 国道269号 キタハラ 北原工区（都城市） 令和7年度完了

北原工区では、山之口方面への左折車両が直進車両の通行を阻害し、渋滞が発生していたことから、直進・左折レーンの線形改良を実施するとともに、串間市方面への右折レーンを設置し、交通の円滑化及び安全性の向上を図りました。

整備前



整備後



左折車両の滞留による
交差点の渋滞を軽減す
るため、左折車線の延
長を実施しました。

整備前



整備後



線形改良・右折レーンの
設置により、車両走行性
や安全性の確保を図りま
した。

●道路空間の再編

宮崎市中心部の高千穂通り（宮崎停車場線）では、安全で快適な道路空間や人々が滞在しやすい空間を創出するため、自転車道の設置及び歩行空間の再整備を進めています。

● HAROW高千穂通前（宮崎市）

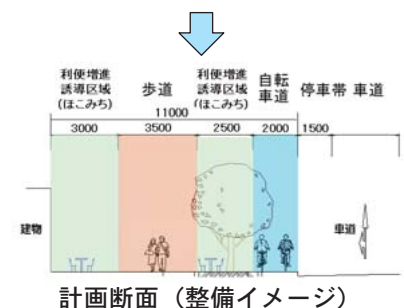
整備前



整備後



現況の道路横断図（幅員構成）



計画断面（整備イメージ）